

東京学芸大学教職大学院では、教員の資質能力の高度化に向けた汎用型ラーニングポイント制としての「履修登録プログラム（免許状更新コース）」および「履修登録プログラム（現職教員研修コース）」を設置し、令和3年度より運用を開始した。「履修登録プログラム（現職教員研修コース）」（以下「履修登録プログラム」）は、教育委員会との連携の基、現職教員が現職教員研修として本学教職大学院開設の専攻科目（教職基礎科目）を科目等履修生として受講することで、教職大学院科目の履修が可能となるものである。専攻科目5科目は夏期集中、オンライン形式により受講でき、これにより修得した単位は将来的に教職大学院へ入学した際の既修得単位として認定される他、専修免許状の取得につなげることもできる。令和3年度は本学と東京都および埼玉県教育委員会の2つの教育委員会と連携して実施され、令和4年度にはさいたま市を加えた3つの教育委員会、そして令和6年度には岩手県および福島県教育委員を加えた5つの教育委員会との連携を拡大し実施している（「履修登録プログラム（免許状更新コース）」は制度改正により令和3年度限りで廃止された）。

教師教育高度化ユニットのミッションは、この「履修登録プログラム」における制度設計を明らかにするとともに、教員研修としての効果を検証することである。また、本学と連携する教育委員会の拡充・普及を検討する他、研修対象とする科目拡大の検討、連携大学における本制度導入・普及を進め、実践力・応用力を備えたスクールリーダー養成に資する「汎用型ラーニングポイント制」の確立を目指している。

本稿は、教員研修としての効果および課題を明らかにすることを目的に「履修登録プログラム」受講者を対象として行ったアンケート調査結果をまとめたものである。前半（Ⅰ）は、令和4年度から令和6年度までの3回にわたり受講後に実施したアンケート調査、後半（Ⅱ）は、過去に「履修登録プログラム」を受講した方を対象にその後の動向等を尋ねたものである。

今後、連携する教育委員会のさらなる拡充・普及、連携大学における本制度の導入・普及を進めるための資料としての活用を図りたい。

2024年10月
（教師教育高度化ユニット）

東京学芸大学教職大学院「履修登録プログラム」

<https://www.u-gakugei.ac.jp/graduate/professional/program/>

※令和7年度より、東京学芸大学教職大学院「特別履修プログラム」に名称変更される

I. 東京学芸大学教職大学院「履修登録プログラム」受講者アンケート —R4年度～R6年度分結果のまとめ—

目次 I

【目的】	2
【方法】	2
【結果の概要】	2
【結果】	3
1. 履修者数と単位取得者数（のべ人数）ならびにアンケート回答者数（表1）	3
2. 回答者の属性.....	4
2.性別	4
2.2年齢層（表2）	4
2.3 教職経験年数（表3）：	4
2.4 職層・職名（表4）	5
2.5 勤務校の校種（表5）	5
3. 受講科目数（表6）	6
4. 履修登録プログラムに参加した理由（表7）	6
4.1 将来的にいつ、どの大学院への入学を想定しているのか？.....	7
5. 受講科目.....	7
5.1 科目内容への関心（表8）	7
5.2内容の理解度（表9）	8
5.3 内容の満足度（表10）	8
6. 受講形態（表11）	9
7. 受講前後の手続き・報告(表12).....	9
8. ラーニングポイント制.....	9
8.1 ラーニングポイント制の認知度（表13）	9
8.2 ラーニングポイント制を使って今後受講してみたい科目・テーマ(表14)	10
9. R6年度 プログラム参加にあたって必要な支援体制（自由記述：12名/46名）	11
【3年間のアンケート結果から見えてきた今後の課題、取り組むべきポイント】	14

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

【目的】

本学における「履修登録プログラム」の研修効果、研修内容に対するニーズ等を明らかにし、「履修登録プログラム」の普及ならびにラーニングポイント制の普及を図るための基礎資料とする。

【方法】

- Google フォームによる Web 調査
- 対象：履修登録プログラム受講者
 - R4年度・R5年度：東京都、埼玉県、さいたま市
 - R6年度：東京都、埼玉県、さいたま市、岩手県、福島県
- 期間：令和4年度：2022年8月24日～9月13日
令和5年度：2023年8月21日～9月1日
令和6年度：2024年8月19日～8月26日

【結果の概要】

- ① 履修者ならびに単位取得者数（のべ人数）は R4 年度以降増加（図 1）
- ② アンケート回答率は 5 割から 6 割
- ③ 回答者の属性
 - 性別：R4 年度は男女比 6 対 4、R5・R6 年度は男女比狭まる
 - 年齢層：35 歳から 49 歳の年齢層で 7 割前後を占める(表 2)
 - 教職経験：最も多いのが教職経験 15 年から 19 年の層(表 3)
 - 職層・職名：9 割前後が主任教諭／指導教諭／指導主事／主任教諭ないしは教諭(表 4)
 - 勤務校の校種：小学校が最多、小・中・高校で 9 割近くを占める(表 5)
- ④ 2 科目以上の複数科目受講者は 6 割から 7 割(表 6)
- ⑤ 受講理由では、「教職大学院への入学を想定しているから」、「興味のある科目があったから」、「受講料が無料だから」について、すべての年度で半数以上の回答者が選択(表 7)
- ⑥ 将来の進学先は、6 割から 7 割の回答者が本学を想定、時期的には「数年以内」が最多(4.1)
- ⑦ 受講科目の満足度および理解度については、9 割以上の回答者が「いずれの科目」ないしは「だいたいの科目」をそれぞれ満足、理解したと回答(表 9、表 10)
- ⑧ 受講前後の手続き・報告については、9 割以上の回答者が「比較的簡単だった」あるいは「面倒な部分はあるものの許容範囲」を選択(表 12)
- ⑨ ラーニングポイント制の認知度は、受講前は低いが受講を通して高い評価を獲得(表 13)
- ⑩ 履修登録プログラム全般に対する評価は高いものの、未だ改善すべき点はある



図1 履修者数および単位取得者数の推移

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

【結果】

1. 履修者数と単位取得者数（のべ人数）ならびにアンケート回答者数（表1）

R4年度の履修者数が27名、単位取得者数がのべ73名、R5年度の履修者数が44名、単位取得者数がのべ106名、R6年度は、岩手県、福島県が新たに加わったこともあり、履修者数が77名、単位取得者数はのべ166名となった。R3年度からR6年度までの4年間のべ462名、462科目の単位取得がなされた。

アンケート回答者の割合は、R4年度については53.2%（R3年度の履修者41名をプラスした計68名中、アンケート回答者は33名）、R5年度は、履修者44名中アンケート回答者は26人で、59%の回答率となった。R6年度は履修者77名中46名から回答を得て回答率は59.7%となった。

		履修者数	単位取得者数 (のべ人数)	アンケート 回答者数	備考
R3年度	東京都	36	109	/	R3年度は調査実施せず
	埼玉県	5	9		
	さいたま市	0	0		
	合計	41	118		
R4年度	東京都	24	67	30	履修者数にはR3年度受講者6名含む
	埼玉県	3	6	3	履修者数にはR3年度受講者1名含む
	さいたま市	0	0	0	
	合計	27	73	33(53.2%)	R3とR4の履修者数計68名を対象
R5年度	東京都	30	82	19	
	埼玉県	11	21	4	履修者数にはR3年度受講者2名含む
	さいたま市	3	3	3	履修者数にはR4年度受講者1名含む
	合計	44	106	26(59.1%)	
R6年度	東京都	30	64	18	履修者数にはR3年度受講者1名含む
	埼玉県	23	59	16	
	さいたま市	9	18	4	履修者数にはR5年度受講者1名含む
	岩手県	7	14	4	
	福島県	8	10	4	
	合計	77	165	46(59.7%)	
全体合計		189	462	105	

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート (R4～R6 年度)

2. 回答者の属性

2. 性別

R4年度は男性 20 名(60.6%)、女性 13 名(39.4%)で男女比が 6 対 4 だったが、R5年度は男性 12 名(46.2%)、女性 14 名(53.8%)、R6年度は男性 24 名(52.2%)、女性 21 名(45.7%)、未回答 1 名(2.2%)となり、回答者の割合に性差はほとんど見られなくなった。

2.2 年齢層 (表 2)

すべての年度で、40 歳から 44 歳の年齢層の履修者が最も多かった。(R4年度 9 名 27.3%、R5年度 7 名 26.9%、R6年度 15 名 32.6%) その前後の年齢層である 35 歳から 39 歳、45 歳から 49 歳の年齢層を加えると、回答者の約 7 割を占めることになった(R4年度 23 名 69.7%、R5年度 18 名 69.2%、R6年度 34 名 73.9%)。

表 2 年齢層別履修者数とその割合

R4 年度		R5 年度		R6 年度	
年齢	回答数 (%)	年齢	回答数 (%)	年齢	回答数 (%)
		24 歳以下	1(3.8)	24 歳以下	0(0.0)
		25-29	0(0.0)	25-29	2(4.3)
34 歳以下	4(12.1)	30-34	3(11.5)	30-34	3(6.5)
35-39	7(21.2)	35-39	6(23.1)	35-39	9(19.6)
40-44	9(27.3)	40-44	7(26.9)	40-44	15(32.6)
45-49	7(21.2)	45-49	5(19.2)	45-49	10(21.7)
50-54	3(9.1)	50-54	3(11.5)	50-54	5(10.9)
55-59	3(9.1)	55-59	1(3.8)	55 歳以上	2(4.3)
合計	33(100.0)	合計	26(100.0)	合計	46(100.0)

注) R4 年度は受講対象者の制限があり、「34 歳以下」区分とした。

2.3 教職経験年数 (表 3) :

すべての年度で、教職経験が 15 年から 19 年の層が最多だった (R4 年度 15 名 45.5%、R5 年度 10 名 38.5%、R6 年度 16 名 34.8%)。教職経験が 19 年以下の履修者が R4 年度、R5 年度と連続して 8 割近くを占めた (R4 年度 26 名 78.8%、R5 年度 21 名 80.8%) が、R6 年度は 67.4%(31 名)になった。

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

表3 教職経験年数

R4年度		R5年度		R6年度	
年数	回答数 (%)	年数	回答数 (%)	年数	回答数 (%)
		4年以下	2(7.7)	4年以下	0(0.0)
		5-9	1(3.8)	5-9	5(10.9)
14年以下	11(33.3)	10-14	8(30.8)	10-14	10(21.7)
15-19	15(45.5)	15-19	10(38.5)	15-19	16(34.8)
20-24	4(12.1)	20-24	3(11.5)	20-24	7(15.2)
25-29	2(6.1)	25-29	2(7.7)	25-29	4(8.7)
30年以上	1(3.0)	30年以上	0(0.0)	30年以上	4(8.7)
合計	33(100.0)	合計	26(100.0)	合計	46(100.0)

注) R4年度は受講対象者の制限があり、「14年以下」区分とした。

2.4 職層・職名 (表4)

R4年度には主幹教諭／指導教諭／指導主事／主任教諭が87.9%(29名)を占めていたが、R5・R6年度とその割合が小さくなった(R5年度17名65.4%、R6年度18名39.1%)一方で、教諭の割合が増加し、R6年度ではアンケート回答者の半数を占めた(R4年度2名6.1%、R5年度7名26.9%、R6年度23名50%)。すべての年度を通して、アンケート回答者の約9割が、主幹教諭／指導教諭／指導主事／主任教諭、または教諭だった(R4年度31名94%、R5年度24名92.3%、R6年度41名89.1%)。R6年度に管理職の割合が回答者の1割(5名)を占めた。

表4 職層・職名

R4年度		R5年度		R6年度	
職層・職名	回答数 (%)	職層・職名	回答数 (%)	職層・職名	回答数 (%)
教諭	2(6.1)	教諭	7(26.9)	教諭	23(50.0)
主幹教諭*	29(87.9)	主幹教諭*	17(65.4)	主幹教諭*	18(39.1)
養護教諭	2 ^ア (6.0)	養護教諭	1 ^イ (3.8)	養護教諭	0(0.0)
管理職	0(0.0)	管理職	1(3.8)	管理職	5(10.9)
合計	33(100.0)	合計	26(100.0)	合計	46(100.0)

*主幹教諭／指導教諭／指導主事／主任教諭

^ア特別支援学校・主任養護教諭を含む ^イ高等学校

2.5 勤務校の校種 (表5)

すべての年度を通して、小学校が最多で(R4年度15名45.5%、R5年度15名57.7%、R6年度22名47.8%)次いで中学校、高等学校、特別支援学校と続いた。小学校、中学校、高等学校をあわせると、全体の9割近くを占めた(R4年度31名93.9%、R5年度22名84.6%、R6年度40名86.9%)。R5年度、R6年度の回答者には中高一貫校が数名いたが、義務教育学校と幼稚園には回答はなかった。

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6 年度）

表5 勤務校の校種

校種	R4 年度 回答数(%)	R5 年度 回答数(%)	R6 年度 回答数(%)
小学校	15(45.5)	15(57.7)	22(47.8)
中学校	9(27.3)	4(15.4)	9(19.6)
高等学校	7(21.2)	3(11.5)	9(19.6)
特別支援学校	2(6.1)	3(11.5)	4(8.7)
中高一貫校	0(0.0)	1(3.8)	2(4.3)
義務教育学校	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
幼稚園	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

3. 受講科目数（表6）

R4 年度では、最も割合が多かったのが、最大科目数 5 科目履修者（12 名 36.4%）であったが、R5・R6 年度は1 科目ないしは2 科目履修者が最多となっている（R5 年度は 1 科目履修者と 2 科目履修者がそれぞれ 8 名で 30.8%、R6 年度は 1 科目履修者が 17 名で 37%）。R5・R6 年度は、1 科目ないしは2 科目履修者で6 割を超えた（R5 年度 61.6%、R6 年度 67.4%）。

R6 年度のアンケート回答者のうち、R5 年度までにすでに受講経験があるケースの既受講科目数は、1 科目が2 人(4.3%)、2 科目および4 科目がそれぞれ1 人（各 2.2%）だった。R6 年度のアンケート回答者の約 9 割が、本年度が初めての履修者だった（42 名 91.3%）。

表6 受講科目数

科目数	R4 年度 回答数(%)	R5 年度 回答数(%)	R6 年度 回答数(%)
1	8(24.2)	8(30.8)	17(37.0)
2	4(12.1)	8(30.8)	14(30.4)
3	7(21.2)	3(11.5)	8(17.4)
4	2(6.1)	1(3.8)	3(6.5)
5	12(36.4)	6(23.1)	4(8.7)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

4. 履修登録プログラムに参加した理由（表7）

すべての年度を通して、履修者の半数以上が当該プログラムに参加した理由として挙げたのが、「将来的に教職大学院への入学を想定しているから」（R4 年度 26 名、R5 年度 19 名、R6 年度 25 名）、「受講料が無料だったから」（R4 年度 17 名、R5 年度 18 名、R6 年度 25 名）「興味のある科目があったから」（R4 年度 21 名、R5 年度 16 名、R6 年度 33 人）だった。「その他」（R6 年度アンケート）：不登校、外国籍児童、令和の日本型教育など今日的な課題や最新の教育動向について把握すると共に現場での問題解決に生かしたいと考えたため（小学校・主幹教諭等・30 年以上）。

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

表7 履修登録プログラムに参加した理由

履修登録プログラムに参加した理由	R4年度	R5年度	R6年度
	人数(%)	人数(%)	人数(%)
将来的に教職大学院への入学を想定しているから	28(78.8)	19(73.1)	25(54.3)
受講料が無料だから	17(51.5)	18(69.2)	25(54.3)
興味のある科目があったから	21(63.6)	16(61.5)	33(71.7)
受講形態（オンライン）や日程がちょうどよかったから	16(48.5)	14(53.8)	24(52.2)
教育管理職へのキャリアを検討しているから	13(39.4)	9(34.6)	18(39.1)
上級免許状への上進を検討しているから	5(15.2)	6(23.1)	7(15.2)
同僚や知人に勧められたから	1(3)	2(7.7)	2(4.3)
教育委員会や学校（管理職）に勧められたから	1(3)	1(3.8)	9(19.6)
その他	2(6.1)	2(7.7)	1(2.2)

色分け：回答の割合が50%を超えた年度が2回の項目、3回の項目

4.1 将来的にいつ、どの大学院への入学を想定しているのか？

R5年度、R6年度のアンケートでは、当該プログラムに参加した理由として、「将来的に教職大学院への入学を想定している」を選択した回答者(R5年度19名、R6年度25名)に対して、具体的な時期、さらには入学希望の教職大学院についても回答を求めた。

いずれも入学時期の想定で最多だったのが「数年以内」だった(R5年度11名57.9%、R6年度12名48%)。入学希望時期を「来年度」とした回答は、R5年度4名21.1%、R6年度4名16%となった。R6年度には、入学時期として、5年後を挙げた者も2名いた。入学時期が未定と回答した者は、R5年度が6名、R6年度が8名だった。

入学を希望する大学院では、本学教職大学院が最多だった(R5年度17名89.5%、R6年度18名72%)。R6年度のアンケート回答者の中には、埼玉大学教職大学院、早稲田大学教職大学院、兵庫教育大学大学院にそれぞれ1名が入学を希望していた。「まだ決まっていない」との回答が、R5年度は6名、R6年度は4名あった。

5. 受講科目

5.1 科目内容への関心（表8）

「いずれの科目のテーマにも関心があった」ないしは「だいたいの科目のテーマに関心があった」との回答数が、すべての年度で8割を超えていた(R4年度32名96.9%、R5年度22名84.6%、R6年度42名91.3%)。

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

表 8 受講科目への関心

	R4 年度 回答数(%)	R5 年度 回答数(%)	R6 年度 回答数(%)
いずれの科目のテーマとも関心があった	21(63.6)	15(57.7)	32(69.6)
だいたいの科目のテーマに関心があった	11(33.3)	7(26.9)	10(21.7)
テーマに関心がある科目と関心がない科目が半々	0(0.0)	4(15.4)	3(6.5)
一部の科目のテーマに関心があったが、 それ以外の科目のテーマは関心がなかった	1(3.0)	0(0.0)	1(2.2)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

5.2 内容の理解度（表 9）

「いずれの科目の内容も理解できた」との回答がすべての年度で最多で、その割合が上がっている。「だいたいの科目の内容を理解できた」との回答数と合わせると、R4 年度は 30 名で 90.9% だったが、R5 年度と R6 年度はどちらも 100% だった。

表 9 内容の理解度

	R4 年度 回答数(%)	R5 年度 回答数(%)	R6 年度 回答数(%)
いずれの科目の内容も理解できた	19(57.6)	18(69.2)	38(82.6)
だいたいの科目の内容を理解できた	11(33.3)	8(30.8)	8(17.4)
内容を理解できた科目と理解ができなかった科目が半々	3(9.1)	0(0.0)	0(0.0)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

5.3 内容の満足度（表 10）

すべての年度で「いずれの科目も満足した」が最多となった。「だいたいの科目に満足した」を合わせると、R4 年度が 30 名で 90.9%、R5 年度が 22 名で 84.6%、R6 年度が 45 名で 97.8% だった。

表 10 内容の満足度

	R4 年度 回答数(%)	R5 年度 回答数(%)	R6 年度 回答数(%)
いずれの科目も満足した	17(51.5)	17(65.4)	37(80.4)
だいたいの科目に満足した	13(39.4)	5(19.2)	8(17.4)
満足した科目と満足しなかった科目が半々であった	3(9.1)	4(15.4)	1(2.2)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

6. 受講形態（表11）

オンラインによる受講形態について、すべての年度で「参加しやすかった」の回答数が75%を上回り、R6年度は9割を超えた。「参加しづらかった」の回答は、どの年度においてもなかった。

表11 オンラインによる受講形態

	R4年度 回答数(%)	R5年度 回答数(%)	R6年度 回答数(%)
参加しやすかった	29(87.9)	20(76.9)	43(93.5)
どちらともいえない	4(12.1)	6(23.1)	3(6.5)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

7. 受講前後の手続き・報告(表12)

R4年度は約半数（16名48.5%）、R5年度は10名（38.5%）、そしてR6年度は28名（60.9%）が、「比較的簡単だった」と回答した。これに「面倒な部分もあったが許容範囲だった」を合わせると、どの年度も、9割を超えた（R4年度30名90.9%、R5年度25名96.2%、R6年度45名97.8%）。

表12 受講前後の手続き・報告

	R4年度 回答数(%)	R5年度 回答数(%)	R6年度 回答数(%)
比較的簡単だった	16(48.5)	10(38.5)	28(60.9)
面倒な部分もあったが許容範囲内だった	14(42.4)	15(57.7)	17(37)
面倒な部分が多くて大変だった	3(9.1)	1(3.8)	1(2.2)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

8. ラーニングポイント制

8.1 ラーニングポイント制の認知度（表13）

R6年度でもラーニングポイント制に対する認知度は相変わらず低い。「知らなかった。今回のプログラムの案内で初めて知った」との回答が、毎年度アンケート回答者の7割を超えている。

表13 ラーニングポイント制の認知度

	R4年度 回答数(%)	R5年度 回答数(%)	R6年度 回答数(%)
知っていた	9(27.3)	3(11.5)	12(26.1)
知らなかった。今回のプログラムの案内で初めて知った	24(72.7)	23(88.5)	34(73.9)
合計	33(100.0)	26(100.0)	46(100.0)

8.2 ラーニングポイント制を使って今後受講してみたい科目・テーマ(表14)

R6年度のアンケート結果で回答が多かった項目を基準として、R4年度、R5年度の順位、回答数（％）を示したのが表13になる。R5年度から、選択肢として「探求と創造のデザイン」、「ファシリテーション」、「データサイエンス・データの活用」、「教師のレジリエンスと自己管理能力の育成」、「チーム学校・多職種連携と協働」が新たに加わった。R4年度までの「外部連携」は、R5年度以降の「チーム学校・多職種連携と協働」に替えた。

すべての年度で、半数以上の回答者が今後希望しているテーマとしたのが、「特別な配慮を必要とする児童・生徒への対応」だった（R4年度18名54.5%、R5年度14名53.8%、R6年度24名52.2%）。R5年度より新たに加わった「探求と創造の学びのデザイン」ならびに「ファシリテーション」は、過去2年間において回答者の約6割が希望していた。また「教育に関する最新事情」についても、R4年度66.7%（22名）、R5年度65.4%（17名）の回答者が希望しており、R6年度は順位では4番目ながらも、半数近い回答者が受講を希望するテーマの一つとして選択していた。

表14 ラーニングポイント制を使って今後受講してみたい科目・テーマ

受講を希望する科目／テーマ	R6年度		R5年度		R4年度	
	順位	人数（％）	順位	人数（％）	順位	人数（％）
探求と創造の学びのデザイン	1	29(63.0)	2	17(65.4)		
ファシリテーション	2	27(58.7)	1	18(69.2)		
特別な配慮を必要とする児童・生徒への対応	3	24(52.2)	3	14(53.8)	3	18(54.5)
データサイエンス、データの活用	3	24(52.2)	6	9(34.6)		
教育に関する最新事情	4	22(47.8)	2	17(65.4)	1	22(66.7)
教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	5	20(43.5)	3	14(53.8)		
学級経営、学校経営	6	19(41.3)	7	8(30.8)	4	16(48.5)
生徒指導、教育相談	6	19(41.3)	7	8(30.8)	4	16(48.5)
チーム学校、多職種連携・協働（R4:外部連携）	7	17(37.0)	2	17(65.4)	6	12(36.4)
教育課程の編成・実施	8	16(34.8)	5	11(42.3)	7	11(33.3)
国際バカロレア教育	9	15(32.6)	7	8(30.8)	8	9(27.3)
教科等の実践的な指導方法	10	14(30.4)	4	12(46.2)	4	16(48.5)
学校教育と教員のあり方	10	14(30.4)	8	7(26.9)	2	19(57.6)
教科の内容	11	12(26.1)	8	7(26.9)	5	13(39.4)
道徳教育	12	7(15.2)	9	5(19.2)	9	7(21.2)
その他	13	3(6.5)	10	1(3.8)	10	3(9.1)

色分け：回答の割合が50%を超えた年度が1回の項目、2回の項目、3回の項目

表14「その他」(R6年度アンケート)：

- ・DX推進、体育科教育（小学校・主幹教諭等・15-19年）
- ・1学校に関わる外部機関の現状と対応範囲、連携方法、今後の在り方、家庭と学校と地域の繋がり。2時代に見合った研修内容、方法 3 心理的安全性が確保された職員室の創り方（中学校・教諭・15-19年）

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6年度）

- ・学校、自治体全体の学力向上のための方策を知りたい。自治体によって学力差がある現状をなんとかしたい。（小学校・主幹教諭等・30年以上）

9. R6年度 プログラム参加にあたって必要な支援体制（自由記述：12名/46名）

（行頭の数字は任意の回答者ID）

【プログラムの周知について】

- (6) とくに必要ではないが、管理職からのお知らせはありがたかった。
- (18) 教育委員会・管理職からの周知がなく、自分で調べた。もっと周知してみんなが学べるとよいと思う。

【受講環境について】

- (16) 職場では Google アカウントが使えないので個人の Google アカウントを使用しましたが、職場でも Google アカウントが使えるら便利だと思いました
- (21) オンラインで参加であったが、セキュリティの関係上校内のネットワークを使うことができなかった。今後は区教委の支援が必要

【プログラム修了者に対する優遇措置について】

- (20) 本履修登録プログラム修了者の大学院入学の優遇 本履修登録プログラム修了者の大学院派遣の教育委員会選考における優遇。
- (41) 教職大学院の入学を優先して欲しい。せっかくここで単位をとったのに入学できない。
- (43) 給与体系や立場など

【参加期間の休暇取得要否について】

- (26) 今回は年休扱いで自宅で受講した。在宅での受講を出勤扱いだとありがたい。（もしかしたら許可されているかも知れなかったが、調べるのが手間だったのでこのような形で受講した。）
- (28) 今回は年休や特別休暇での参加でしたが、職専免での参加が広がれば良いと思いました

【その他】

- (31) 勤務校が江戸川区だが、勤務終了後に大学の授業に参加するには時間がかかりすぎて取ることができる単位が限られてしまう。勤務時間で融通をつけてもらうことも可能であるが、ミドルリーダーであればあるほど、時間的な制約も多く、今回のような夏季集中講義を活用して自宅研修扱いで自宅で充実した学びをすることができるのであれば、潜在的な授業を喚起することができると考える。できれば冬休みや春休みなどの長期休業日や今回のような土日の開校があると、講師の先生方には大変申し訳なく思うが、私は何度も受講したいと考える。それほど、現場では今日的な対応に苦慮しており、講師の先生からの最新の情報や様々な校種、職歴の先生方との対話を通して多角的多面的に課題を捉えたり、解決の方策のヒントとなったりするため、何らかの形で現職の教員の学びの機会を確保していただければと現代の子供達が直面する課題に対する方策を得られるのではないかと、時間がかかるかもしれないが、日本の教育の環境がよりよくなるのではないかと考える。今、必要なのは教師教育で1人の教師が多くの子供の学びに影響する。いろいろな課題があるとは思いますが、今回のような研修の機会をこれからも提供していただけるとありがたく思います。

10. R6年度プログラム全般に対する改善点、意見・要望（自由記述：21名/46名）

（行頭の数字は任意の回答者ID）

【プログラム全般について】

- (14) 学びが多くてこれが無料で受講できることがありがたかったです。今後も大学院の入学も視野に入れて学び続けたいです。ありがたかったです。
- (16) とても勉強になる、充実した3日間でした。ありがとうございました。
- (17) 地元では受ける機会がなかったプログラムで、内容がとても充実していた。他県、他校種や役職、経験年数を問わず様々な先生方とたくさん意見交流ができたのでよかった。今回のプログラムで学んだことをこれからの自己のキャリア形成に活かしたい。また、自校で起こり得る諸問題の解決や、カリキュラム作成、働き方改革にも活かしたい。
- (18) 要望はないです。大変有意義な学びの時間でした。このような機会をくださり大変感謝しております。
- (20) とてもよい取り組みなので継続・拡大してほしい 講座の日程が連続しており、課題の作成が大変だった。課題を授業内で終える講座は負担がなく有意義であった。
- (23) 今回とても有意義な時間を過ごせました。是非、学んだ事をどう活かしたのか検証する時間を共有したいです。秋から冬頃にまた集まりたいです。継続的なプログラムを希望します。
- (25) 大変良い学びができました。
- (26) 現地にいかず、無料で参加できるため、とてもよいと思う。
- (28) 次年度も様々な講座に参加したい。夏季休暇や冬季休暇なら集中的に学ぶことができる。単位をいただくと、大学院を修了したい、という欲が出てきます。
- (29) とても有意義な学びがありました。充実した時間をありがとうございました。
- (31) 大学院で学ぶにあたって、リモートで大変充実した学びを行うことができた。Web class による情報提供により、他のメールでの情報と混ざらずにいつ、どのように接続するのかという必要な情報を漏れなく入手することができた。また、zoom や teams、google classroom など様々な媒体で学ぶことができたのも、我々が実際に児童に指導する際のよいモデルとなり、現場での実践に還元しやすかったと考える。課題の提出も出した出さないなどの問題はなく、提出後に受取確認メールが届いたり、再度提出する機会があったりして、実用的ですぐれていると考えた。また、メールアドレスも個人に割り当てていただいたので、他のメールと混ざらずに大学院関係の連絡のみに使用することができた。受講生同士の連絡でも活用できそうである。できれば教職大学院で学びたいが、職務遂行をしながらの通学が大変難しく、職務で課題を抱えているので学びたいというジレンマがある。専門職大学院は現場で直面する様々な臨床的な課題を実践を通して解決することで新たな知見が得られることがその使命であると考ええる。ぜひ、履修登録プログラムの制度を今後も続けていっていただき、私と同じように考えている方々の問題の解決に糸口になればと考える。私自身、2学期からの授業や学校組織に対して新たな取組を行おうと考えることができた。半日病院に行くために受講をしなかった堀田先生にぜひ、講義を受けたいとお願いして了解していただいたことや今回受講させていただいた4人の先生方の実践に根差した講義や演習、共に受講した多くの仲間たちから多くのことを学ぶことができたことに感謝します。ありがとうございました。
- (40) 講義を通して授業を担当してくださる先生以外にも、様々な方のお話を伺うことができ、自身の勤務校での実践に向けて非常に参考になりました。より多くの先生方にこのようなプログラムに参加していただけるよう、情報が広まっていけばと感じました。
- (43) 大変勉強になりました。ありがとうございました。

I. 「履修登録プログラム」受講者アンケート（R4～R6 年度）

【授業内容について】

- (2) 他の自治体、他校種の先生方とも意見交換がとても良かったと思います。また講師の先生からの講義も大変有益でとても勉強になりました。
- (15) オンラインで貴重な講義を受けることができ、大変感謝しております。最新の教育情報を知ることができ、大変有意義でした。一部の講義で、講師の方が定年退職なさった数年前の学校の様子をそのまま講義なさっていらっしゃる、とても気になりました。

【要望】

- (4) 来年度、教職大学院を検討しております。高校教員は部活動指導もあり夜間の授業も通いづらい現状があります。夏季休業中でこのようなオンラインであれば受講しやすくありがたかったです。来年度は 5 つの講座のみならず、他の講座もぜひ開講していただけるとありがたいです。ニーズもあると思います。
- (5) ネット環境などの整備
- (6) 先生のご都合もあるとは思いますが、平日開催だとありがたいです。（子供を園に預けられて参加できるため）
- (30) 土日のオンラインへの接続サポートスタッフがいると、何か不具合があったとき安心かと思いました。教授 1 人の対応ですと、タブレットが苦手な受講者は申し訳なく思います。
- (46) 日曜日は、保育園がお休みなので苦労しました。

【3年間のアンケート結果から見えてきた今後の課題、取り組むべきポイント】

- 受講者数の増員に向けて（R10年3月までの6年間に累計540名以上の科目受講者とする
ことが中期計画第4期に掲げられている）

- ＊R6年の3年間で、履修者数は計189名、単位取得者数（のべ）462名

- ＊R6年度の定員充足率（受講者数/自治体定員）

- 東京都 60%（30名/50名）、埼玉県 58%（23名/40名）、

- さいたま市 90%（9名/10名）、岩手県（7名/5名）、福島県（8名/5名）

→引き続き、教育委員への働きかけを進める

- 受講生の属性のうち、校種では9割以上が小中高の状況に変化なし。

- ＊特別支援学校（R4年度2名、R5年度3名、R6年度4名）

- ＊中高一貫校（R4年度0名、R5年度1名、R6年度2名）

- ＊幼稚園・義務教育学校は0名

→引き続き、教育委員会からの積極的な働きかけを依頼する

- 「履修登録プログラム」への参加理由として、教職大学院への入学は考えてはいるものの、免
許の上進を考慮している受講生は少ない（R4年度15%、R5年度23%、R6年度15%）

→さらなるアピールが必要

- ラーニングポイント制に対する認知度は低い（R4年度27%、R5年度12%、R6年度26%）

→引き続き、ラーニングポイント制についての周知を積極的に行う必要あり

- ラーニングポイント制を使って受講してみたい科目・テーマの検討

- ＊要望が多かったテーマ：特別な配慮を必要とする児童・生徒への対応、教育に関する最新
事情等

→要望が多かったテーマへの対応

- ◆ 上記は、各年度でまとめたアンケート結果で挙げられた取り組むべきポイントとほぼ変化なし
→同プログラムへの認知度を高めるため、これまでに実施してきた働きかけを継続して行う他、
潜在的受講生に直接アプローチするための方法を見直すことが求められる

（文責 久邇良子）

Ⅱ. 東京学芸大学教職大学院「履修登録プログラム」受講者動向調査 （令和5・6年度調査）

目次 Ⅱ

1. アンケート回答者の属性	16
1-1 「履修登録プログラム」履修者数に対するアンケート回答者数	16
1-2 履修者数の年齢と性別	16
1-3 履修者数の教職経験年数、現在の勤務校の校種と職位	17
2. プログラムの受講状況	18
2-1 プログラムの受講年度と受講科目数	18
3. プログラムの評価（仕事への有用度・プログラムの満足度）	20
3-1 仕事への有用度と満足度	20
3-2 選択した理由（自由記述）	21
4. 受講者の進学希望状況	24
4-1 進学希望状況と進学希望大学	24
5. 意見	26
結果の概要	29

1. アンケート回答者の属性

1-1 「履修登録プログラム」履修者数に対するアンケート回答者数

「履修登録プログラム」の主な受講者（表 1-1）は、現在は東京都と埼玉県に勤務している。前年度までの履修者に調査を依頼し、令和 5 年度調査では 45.5%、令和 6 年度では 36.4%から回答が得られた。主に東京都に勤務している履修者が回答して、他自治体からの回答率は著しく低い。以下、表中の年度は調査年度を示す（「R5 年度」=R4 年度受講者、「R6 年度」=R5 年度受講者）。

表 1-1 「履修登録プログラム」履修者数に対するアンケート回答者数（現在の勤務自治体別）

勤務自治体	R5年度		R6年度		合計	
	履修者 (継続)	回答者	履修者 (継続)	回答者	履修者 (継続)	回答者
東京都	30 (3)*1	16 (53.3%)	30 (1)*2	24 (80.0%)	60 (4)	40 (66.7%)
埼玉県	11	3 (27.3%)	23	0 (0.0%)	34	3 (8.8%)
さいたま市	3	1 (33.3%)	9 (1)*3	0 (0.0%)	12 (1)	1 (8.3%)
岩手県	0	0	7	0	7	0
福島県	0	0	8	0	8	0
計	44 (3)	20 (45.5%)	77 (2)	24 (31.2%)	121 (5)	44 (36.4%)

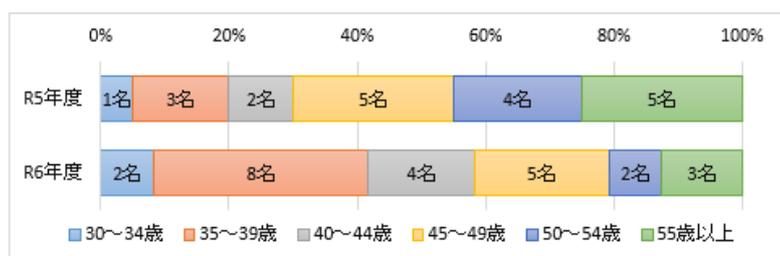
Note: 履修者のうち、*1 R3年度からの継続2名、R4年度からの継続1名、*2 R3年度1名（令和4・5年度受講なし）、*3 R5年度からの継続1名

1-2 履修者数の年齢と性別

回答があった受講者の現在の年齢層（表 1-2）は幅広く、30代から40代が特に参加している。性別（表 1-3）は、年度によってやや違いはあるものの、ほぼ均等である。

表 1-2 年齢

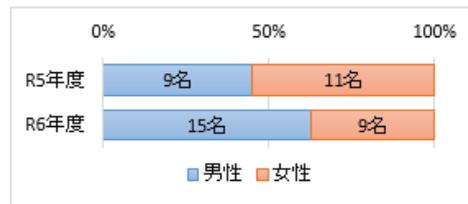
	R5年度		R6年度	
30～34歳	1名 (5.0%)	2名 (8.3%)		
35～39歳	3名 (15.0%)	8名 (33.3%)		
40～44歳	2名 (10.0%)	4名 (16.7%)		
45～49歳	5名 (25.0%)	5名 (20.8%)		
50～54歳	4名 (20.0%)	2名 (8.3%)		
55歳以上	5名 (25.0%)	3名 (12.5%)		
計	20名	24名		



Ⅱ. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

表 1-3 性別

	R5年度	R6年度
男性	9名 (45.0%)	15名 (62.5%)
女性	11名 (55.0%)	9名 (37.5%)
計	20名	24名



1-3 履修者数の教職経験年数、現在の勤務校の校種と職位

現在の教職経験年数（表 1-4）の分布を見ると、15～19年の経験者が最も多く、10～14年や20～24年の経験者が続き、中堅からベテランの教職員がプログラムに参加していることが示されている。

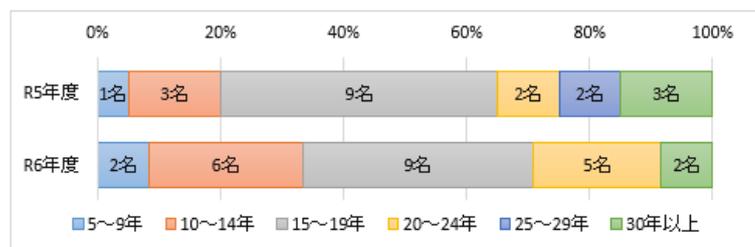
現在の勤務校の校種（表 1-5）は小学校の教員が半数を占めていて、次いで中学校、高等学校、特別支援学校と続く。

現在の職層・職名（

表 1-6）は、「主幹教諭/指導教諭/指導主事/主任教諭」と回答した者が、3分の2を占める。次いで、「教諭」「管理職」「養護教諭」と続く。

表 1-4 教職経験年数

	R5年度	R6年度
5～9年	1名 (5.0%)	2名 (8.3%)
10～14年	3名 (15.0%)	6名 (25.0%)
15～19年	9名 (45.0%)	9名 (37.5%)
20～24年	2名 (10.0%)	5名 (20.8%)
25～29年	2名 (10.0%)	0名 (0.0%)
30年以上	3名 (15.0%)	2名 (8.3%)
計	20	24



Ⅱ. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

表 1-5 勤務校の校種

	R5年度		R6年度	
幼稚園	0名	(0.0%)	0名	(0.0%)
小学校	10名	(50.0%)	12名	(50.0%)
中学校	2名	(10.0%)	8名	(33.3%)
義務教育学校	0名	(0.0%)	0名	(0.0%)
高等学校	6名	(30.0%)	2名	(8.3%)
中高一貫校	0名	(0.0%)	0名	(0.0%)
特別支援学校	2名	(10.0%)	1名	(4.2%)
その他	0名	(0.0%)	1名	(4.2%)
計	20名		24名	

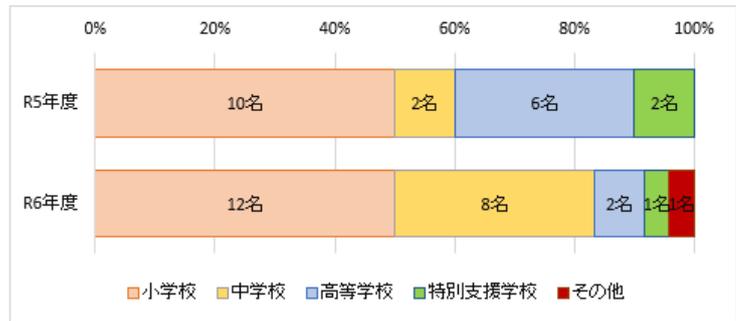
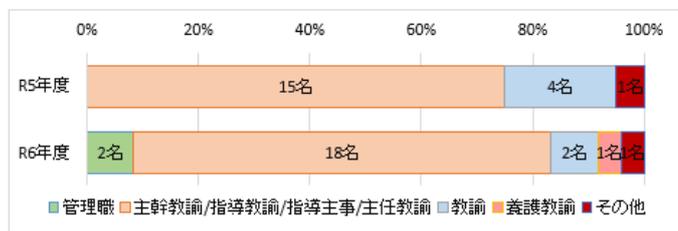


表 1-6 職層・職名

	R5年度		R6年度	
管理職	0名	(0.0%)	2名	(8.3%)
主幹教諭/指導教諭/指導主事/主任教諭	15名	(75.0%)	18名	(75.0%)
教諭	4名	(20.0%)	2名	(8.3%)
義護教諭	0名	(0.0%)	1名	(4.2%)
その他	1名	(5.0%)	1名	(4.2%)
計	20名		24名	



2. プログラムの受講状況

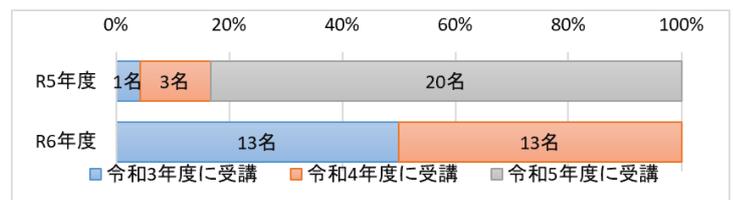
2-1 プログラムの受講年度と受講科目数

受講年度（表 2-1）は、令和 5 年度に行った調査には、令和 3 年度、令和 4 年度、令和 5 年度に受講した履修者が、令和 6 年度に行った調査には、令和 3 年度と令和 5 年度の受講者が回答している。

受講科目数（表 2-2）は、5 科目受講者が最も多いが、「1 科目」「2 科目」「3 科目」「4 科目」の受講者もまんべんなくみられる。

表 2-1 受講年度（複数選択可）

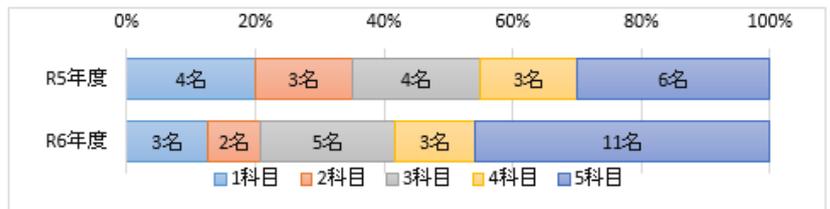
	R5年度		R6年度	
令和3年度に受講	1名	(4.2%)	13名	(50.0%)
令和4年度に受講	3名	(12.5%)	13名	(50.0%)
令和5年度に受講	20名	(83.3%)	0名	(0.0%)
計	24名		26名	



Ⅱ. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

表 2-2 受講科目数

	R5年度		R6年度	
1科目	4名 (20.0%)	3名 (12.5%)		
2科目	3名 (15.0%)	2名 (8.3%)		
3科目	4名 (20.0%)	5名 (20.8%)		
4科目	3名 (15.0%)	3名 (12.5%)		
5科目	6名 (30.0%)	11名 (45.8%)		
計	20名	24名		



3. プログラムの評価（仕事への有用度・プログラムの満足度）

3-1 仕事への有用度と満足度

「履修登録プログラムが仕事の役に立っているか」（表 3-1）については、「とてもそう思う」「ややそう思う」と大半の履修者が回答していて、プログラムが業務の役に立っていることが示されている。その具体的な理由として（次ページ自由記述）、教員としての基礎的な能力の向上、実務に関する知識の習得、仕事に対する視野の広がりなどの面から役に立った、という記述がみられた。

「履修登録プログラムにどのくらい満足しているか」（表 3-2）についても、「とても満足している」「やや満足している」と大半の履修者が回答していて、プログラムへの高い評価が窺える。その具体的な理由として（次ページ自由記述）、プログラムの内容が充実していて刺激が受けられたこと、短期間で集中的に学ぶことができたこと、専門家から直接学ぶことができたこと、交流の場があったこと、という記述がみられた。

表 3-1 仕事への有用度（「履修登録プログラム」で受講した内容が現在の仕事に役立っていると思いますか）

	R5年度	R6年度
5.とてもそう思う	15名 (75.0%)	14名 (58.3%)
4.ややそう思う	5名 (25.0%)	9名 (37.5%)
3.どちらともいえない	0名 (0.0%)	1名 (4.2%)
2.あまりそう思わない	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
1.まったくそう思わない	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
計	20名	24名

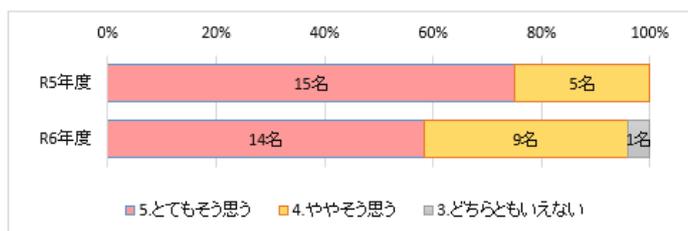
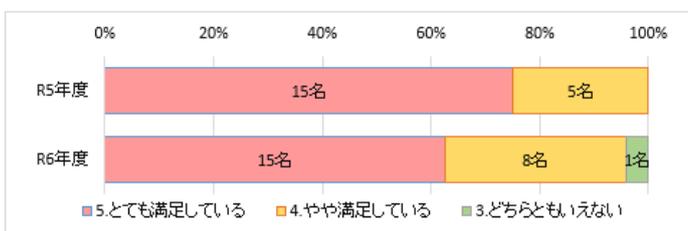


表 3-2 プログラムの満足度（「履修登録プログラム」全体を通して、どのくらい満足していますか）

	R5年度	R6年度
5.とても満足している	15名 (75.0%)	15名 (62.5%)
4.やや満足している	5名 (25.0%)	8名 (33.3%)
3.どちらともいえない	0名 (0.0%)	1名 (4.2%)
2.あまり満足していない	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
1.まったく満足していない	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
計	20名	24名



3-2 選択した理由（自由記述）

（自由記述）「仕事への有用度」を選択の理由

「5. とてもそう思う」を選択の理由

- ・ 現在の研究内容の講義で、学び方ができた。
- ・ さまざまな教育課題に触れられた。特にギフトなど自分が知らなかったこともあったので、そういったことを学べたのがよかった。
- ・ 講義を聴いたり参加者の方と意見交換をしたりする中で、教員としての自分の考えを確立することができたように思うから。
- ・ 最新の教育動向が分かる。また、ファシリテーションについても参考になった。
- ・ 根拠が明確になりました。
- ・ 視野がひろがった。広く深く考えること、俯瞰することなど意識するようになった。もっと学びたくなり、令和5年度教職大学院に入学した。
- ・ 支援が必要な児童への声掛けや見方などが広い視野で捉え、できるようになった。
- ・ 教材などの紹介をしていただき、使っている。"
- ・ 現場で、ICTやGIGAスクールの推進役を担っており、大学院の学びで得た知見や共に学んだ受講生とのつながりも活かして、さらに継続して学んでいる。
- ・ 教材作成、カリキュラム作成、に役に立ちました
- ・ 見えてきたものがある分、エネルギーを注ぐことが有益ではない感じたことについてある程度スルーできることも増えた。
- ・ 子供理解について、組織的対応、個人的な対応を学び意識して行動していると思うから。
- ・ 今の業務に必要な情報や考え方を得られたから。
- ・ 日々の勤務に直結する内容と、教員として必要なことの根本的な部分を教えていただきました。また、一緒に受講した先生方と共に学んだ経験も、勤務の役にたっていると感じています。
- ・ 教授のお人柄が、溢れている講義で、自分自身もそうありたいと感じました。

「4. ややそう思う」を選択の理由

- ・ 直接的に役に立っているというよりは、自身の思考の幅が分厚く骨太になったように思います。
- ・ 校種、免許ごとの研修ではないため、全ての内容が有用ということはないが、学校種の違いや困難さ等を知る機会にはなった。
- ・ 直接役に立っていると感じているというよりも、考え方の幅のようなものが広がったから
- ・ 校内研修での競技会の持ち方など活用させることができたため。
- ・ 初めて知る内容はなかったが、改めて考え、議論できたことで解像度が高まったと感じています。
- ・ 海外の教育事情やそれぞれの学校課題など、参加者との意見交換を通じて多面的に教育のあり

II. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

方を理解することができた。

- ・ 教職大学院に進みたいから
- ・ 学校教育活動の、その先の目標について、見通しをもったり、意識したりできるようになった。
- ・ "教職大学院派遣研修選考でプログラムの参加が事前準備としてアピールできた。
- ・ 校長経験者の教授だったので実務に直接関係する話が多く学べた。
- ・ 教育課題に対して意欲的に向き合おうとする先生方と話し合いができたことは特に有意義だった。

「3. どちらともいえない」を選択の理由

即生させる内容ではなかったため

（自由記述）「受講した満足度」を選択の理由

「5. とても満足している」を選択の理由

- ・ 新しい知見があったから。
- ・ 講義の内容も、参加者との意見交換も、とても充実していたから。
- ・ 入学時に既習単位として認められる、専修免許取得に利用できる、オンライン完結など現職教員にとってメリットが大きい
- ・ さまざま事を、俯瞰して考えることができました。
- ・ 教職大学院受験を決意し、令和5年度入学しました。
- ・ 学校経営という管理職の視点を学べたこと。また、受講生と共に主体的対話的な学びを実現する授業について考えたこと。
- ・ 学びたいことが自宅(オンライン)で効率的に学べたから
- ・ 家庭の事情で急遽出席ができなくなった際にも、私自身は履修を諦めていたのですが、親身に対応していただき、大変ありがたく思いました。
- ・ 学ぶ機会はとても大事だった。他校種、他地区との交流の機会にも恵まれた。
- ・ オンラインだったため、研修に参加したことで、ICT活用への抵抗も減り、技能も向上した。
- ・ オンラインで短期間での集中した学びができたから。
- ・ 受講しなければ知らないままだった情報がたくさんあった。ブレイクアウトルームで様々な先生方と交流できた。
- ・ 10でも回答したが、意識の高い先生方との議論は自分の意識を高めることにつながった。より深く学びたいという意欲にもつながった。

「4. やや満足している」を選択の理由

- ・ 全体的には満足しているが、オンライン実施だったため、対面だったらもう少し相互の学びを

Ⅱ. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

深められたかもしれない。

- ・ 他校種とのかかわりが新鮮だった
- ・ コロナ禍のためオンライン研修であったが、受講する側としては移動時間のこと等考えると大変良かった。内容としては充実しているものであった。参考書籍の紹介等もしていただくとその後の学習にもつながりやすいと感じた。
- ・ 一部内容が古いものがあった。特に授業法などは。旧学習指導要領的实践の紹介に、理論としての主体的、対話的、深い学びの内容が付随しているなど、現場感覚とのずれを感じることもあった。
- ・ 理解に時間がかかる難しい講義内容や資料もあり、勉強になったが理解するのがやっとだった。
- ・ オンラインでありがたかった反面、対面も一日あってもよいと感じたから。
- ・ 教職大学院に進学したいから
- ・ 事務方のやり取りが、少し機械的で、筑波大学大学院の方々とは違うなあと感じました。

「3. どちらともいえない」を選択の理由

- ・ 科目によっては、話し合いや講義について、あまり有用性を感じないものもあったから

4. 受講者の進学希望状況

4-1 進学希望状況と進学希望大学

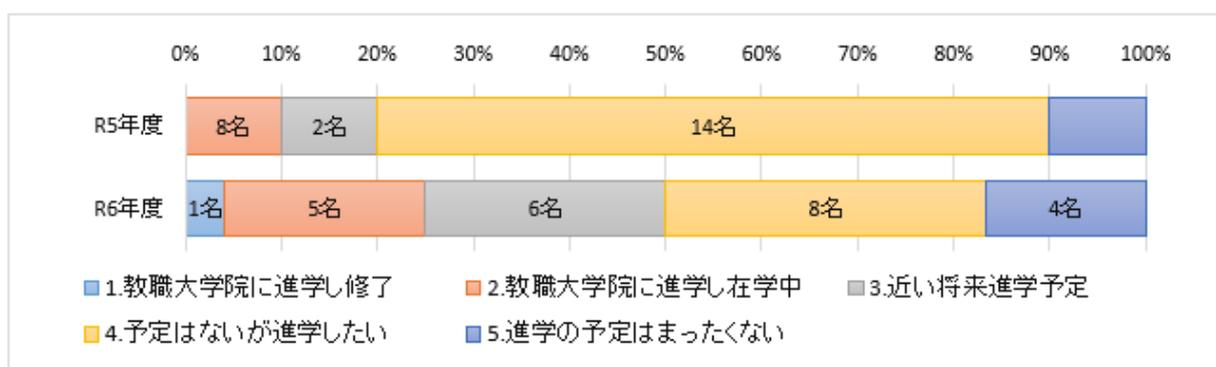
進学希望（表 4-1）からは、多くのものが進学に関心を示していることがわかる。一方、「予定はないが進学したいと考えている」人が最も多く、進学に興味はあるものの、具体的な計画や決断には至っていないともいえる。

進学希望先（表 4-2、表 4-4）は、令和 5 年度は全員が「東京学芸大学教職大学院」を希望しているが、令和 6 年度は、「東京学芸大学教職大学院」を希望する者 12 名に次いで「早稲田大学教職大学院」と回答したものが 7 名みられた。

進学予定時期（表 4-3、表 4-5）を具体的に答えた回答者は少なかったものの、令和 5 年度は 5 年以内のいずれか、令和 6 年度は 3 年以内のいずれかを予定しているという回答であった。

表 4-1 進学希望

	R5年度		R6年度	
1.教職大学院に進学し修了	0名	(0.0%)	1名	(4.2%)
2.教職大学院に進学し在学中	2名	(10.0%)	5名	(20.8%)
3.近い将来進学予定	2名	(10.0%)	6名	(25.0%)
4.予定はないが進学したい	14名	(70.0%)	8名	(33.3%)
5.進学の予定はまったくない	2名	(10.0%)	4名	(16.7%)
	計 20名		24名	



令和5年度内訳

表 4-2 【令和5年度】進学希望大学 ※「5.進学の予定はまったくない」以外を選択した人（複数回答可）

	東京学芸大学 教職大学院	年齢的に無理
2.教職大学院に進学し在学中	2	
3.近い将来進学予定	2	
4.予定はないが進学したい	13	1
計	17	1

表 4-3 【令和5年度】進学予定時期

	できるだけ早く	来年度	1～3年後	2～3年後	5年後	校務の状況
3.近い将来進学予定	1	1				
4.予定はないが進学したい			1	2	2	1

【令和5年度】進学を希望しない理由（「5.進学の予定はまったくない」）

- ・勉強はしたいが、短期のセミナーなどでいいかなと考えている。
- ・年齢制限があり、進学できないと思っているため

令和6年度内訳

表 4-4 【令和6年度】進学希望大学 ※「5.進学の予定はまったくない」以外を選択した人（複数回答可）

	東京学芸大学 教職大学院	早稲田大学 教職大学院	帝京大学 大学院	放送大学	未定
1.教職大学院に進学し修了	1				
2.教職大学院に進学し在学中	4		1		
3.近い将来進学予定		6			
4.予定はないが進学したい	7	1		1	1
計	12	7	1	1	1

表 4-5 【令和6年度】進学予定時期

	来年度	2年後	2～3年後	3年後
3.近い将来進学予定	1	3	1	1

【令和6年度】「5.進学の予定はまったくない」理由（「5.進学の予定はまったくない」）

- ・管理職になったので、タイミングが難しそうのため。/教育現場で管理職を目指しているから。
- ・現場で頑張りたいと思っている。/大学院でなくても、学べる場は多種多様だと感じたから。

5. 意見

令和5年度と令和6年度の課題は、主に次の5つに集約される。

1. 情報共有と周知不足

- プログラムの存在を知らない現職教員が多く、もっと周知してほしい。
- メールなどで個人にも案内してほしい。

2. 受講機会の拡大

- 若手教員や連携自治体を広げるなど、受講できる対象者を広げてほしい。
- プログラムの魅力をもっと広く伝えてほしい。
- 同じ講義の再受講を認めてほしい。
- 冬季にも開講してほしい。

3. プログラムの拡充と改善

- 新たなカリキュラムや講座の開設してほしい。
- 同じ教科の講義を複数開講し、学びたい分野を選択できるようにしてほしい。
- 互換性のある単位取得、公認心理師試験に関する講座を受講したい。

4. 運営面への要望

- レポートの提出方法を説明してほしい。

5. 進学や単位に関する要望・疑問

- 履修した人が優先的に進学できるようにしてほしい。
- 取得した単位に有効期間はあるのか。

（自由記述）令和5年度の意見とお礼

要望

- 今年度、私の確認不足なところもあり、参加することができませんでした。お手数でなければ、**次年度の申し込みの内容等を今回のようなメールでいただくことは可能でしょうか。**すでにそのようなことがあればすみません。また参加したいと願っております。引き続きよろしくお願致します。
- 現職の教員が学ぶ貴重な機会なので、**ぜひ多くの教員が受講できるよう制度を整えてほしい。**

Ⅱ. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

- ・ まだ、色々と開講して欲しい
- ・ **受講科目で別のカリキュラムが新設されれば、ぜひまた受けてみたい。**
- ・ 貴重な学びの場を提供していただき、ありがとうございました。今年、東京学芸大学教職大学院に通っていますが、**現職教員の多くがこの科目履修プログラムの存在を知らないようでしたので、もっと周知されるといいなあ**とは思いました。たくさんの人に学ぶ機会があればいいと思います。

お礼

- ・ とても有意義なものでした。また何か違う科目も受けたいです。
- ・ 久しぶりに学生気分を味わうことができました。幾つになっても勉強するのは、楽しいですね。視野や価値観が広げられるのはとても刺激になります。ありがとうございました。
- ・ 素晴らしいプログラムだと思います。どうもありがとうございました。
- ・ 先生方が素敵でした。ありがとうございました。
- ・ 機会があれば残りの科目も履修したい。
- ・ 特になし。
- ・ 「履修登録プログラム」というシステムに出会えたこと、心よりうれしく思っております。現職の教員として本当に忙しい日々ですが、学び続けていきたいと思っております。これからも貴校において、学びを深められる日々を心待ちにしております。本当にありがとうございました。
- ・ とても多くの学びがありました。先生も受講生も熱心で、刺激になりました。学びの機会をいただけて感謝しています。多くの方に薦めたいです。

（自由記述）令和6年度の意見とお礼

要望

- ・ **同じ講義は受けられないとのことですが、受けたい**と思っています。
- ・ **同じ教科であっても複数が開講され、学びたい分野を自身で選択できるとよい。**レポートの提出方法が最初は分かりづらく説明もなかった。zoom等の接続説明は事前にされていたため、提出方法についても事前に説明していただきたかった。
- ・ 品川区で令和3年度に履修登録プログラムを受講し、6単位を取得しました。引き続き4年度も希望していたのですが、**大田区に異動後、学校に開催の案内がありませんでした。**アンケートのためにアドレスが保存されているなら、**参加案内も個人宛に送っていただけないのでしょうか？**4年度も受講したかったので、すごく残念です。
- ・ 学びを深める大変良い機会を提供していただきありがとうございました。一点質問があります。**この履修で修了した単位に有効期間はあるのでしょうか？**
- ・ **履修した人が優先的に教職大学院に行けるようにして欲しい**

II. 「履修登録プログラム」受講者動向調査（R5・R6年度）

- ・ 5科目を履修したので大変でしたが、学んだという充実感がありました。今は、公認心理師の受験資格を得るための大学院か、職務に関係のある教職大学院かを悩みながら放送大学で単位を取得しています。**互換性のある単位取得、または公認心理師試験の教育分野に関する子どもへの対応の仕方などの講座の受講ができるのが嬉しいです。**
- ・ **素晴らしい制度なので冬季も開催するなど、機会が増えるとよい。また、自治体と連携してメリットを全面に押し出してもっと宣伝して欲しい。**
- ・ 東京都では主任教諭以上の職域が受講対象だと聞きました。若手教諭の中にも意識の高い人はいるので、**受講の幅を広げてもらえると嬉しいです。**教職専門実習で知り合った神奈川の先生も参加したそうでしたが、**神奈川は提携していないため受講できないのが残念だ**と話していました。とても有意義な研修なので、受講の機会が広がることを願っています。

お礼

- ・ 大変貴重な学びの場を作ってくださいありがとうございました。
- ・ とても良いプログラムだと思っています。本当にありがとうございました。
- ・ 充実した学びを提供してくださりありがとうございました。
- ・ 大変学びの多い時間になりました。研修とはまた違い、まとまった時間の中で同じ課題を追究することで理解が深まり、多面的な見方・考え方ができるようになった。
- ・ とても良い学びが出来ました。受験、入学へ強い決意になりました。10年以上前からの夢の実現になりました。つぎは、卒業を目指して頑張っています。
- ・ オンライン講義でしたが、資料は見やすく、ブレイクアウトルームを活用した協議もスムーズでとてもよかったです。内容も教員にとって重要なものでした。最新情報を得られたことも嬉しかったです。

結果の概要

Ⅱ. 東京学芸大学「履修登録プログラム」受講者動向調査（令和5・6年度調査）では、「履修登録プログラム」受講者のその後の動向を明らかにするためR5年度およびR6年度の2年間にわたり、前年度までの受講者を対象とするアンケート調査を行った(表 2-1)。全体で44名から回答があった(回収率 36.4% : 表 1-1)。

- 「履修登録プログラム」が現在の仕事に役立っているとの回答は97.7%であった(表 3-1)。

【主な理由】「最新の教育動向が分かる」「根拠が明確になった」「視野がひろがった」の他、「支援が必要な児童への声掛けや見方などが広い視野で捉えできるようになった」「教材作成・カリキュラム作成に役に立った」「今の業務に必要な情報や考え方が得られた」など

- 「履修登録プログラム」の満足度は高く、97.7%が満足と回答していた(表 3-2)。

【主な理由】「新しい知見があった」「講義の内容も、参加者との意見交換もとても充実していた」「入学時に既習単位として認められる、専修免許取得に利用できる、オンライン完結など現職教員にとってメリットが大きい」「学校経営という管理職の視点を学べた」「他校種、他地区との交流の機会にも恵まれた」など

- 教職大学院への進学志望は、回答者の内すでに進学して終了している者が1名(2.3%)、教職大学院に在学中が7名(15.9%)、その他30名(68.2%)は進学予定または進学希望であった(表 4-1)。また、進学希望先は本学教職大学院が最多の他、早稲田大学教職大学院、帝京大学教職大学院などもあった(表 4-4)。

- 課題として「履修登録プログラム」に関する情報の共有と周知不足の声があった

➡各自治体との調整、周知方法の改善など継続して検討

- 受講機会の拡大やプログラムの拡充を望む声があり、制度自体の有効性が示されたと言える

➡汎用型ラーニングポイント制の実現に向けた取り組み

(文責 登本洋子)